



温泉で元気に、温泉を元気に～環境省温泉地活性化プロジェクト～

目的：民間、自治体の温泉地活性化に関するアイデア・事業を強かにバックアップし、温泉地活性化の起爆剤とする。

【プロジェクトの内容】

1. 温泉と自然を活かした地域の魅力向上

(1) 誰でも温泉を楽しめる「新型湯治プラン」

「明日の日本を支える観光ビジョン」や「観光立国実現に向けたアクションプログラム」を踏まえ、我が国の豊かで多様な自然環境を活かしながら、特にインバウンドに対する新たな温泉の魅力の磨き上げを進める。例えば、日本の温泉文化である湯治等による健康増進効果を踏まえた新型湯治プラン（仮称）の作成など、多様な温泉利用プログラムの開発・普及、多言語化対応等のプログラムを提供する。加えて、本プログラムにおいて、特に外国人来訪者に対する入浴方法やマナーなどに関する分かりやすい案内表示の作成などについて、温泉地関係者の受け入れ側の意見も聞きながら対応を検討する。

(2) 「温泉力」を活かした地域の魅力向上～未利用熱による地域活性化～

温泉の魅力の1つである「熱」に着目した取組を推進する。特に温泉排湯といった未利用熱は地球温暖化対策に非常に有効な手段であることから、これらの熱源を活かす取組を推進する。

2. 温泉地のブランド化の推進とPR

温泉は日本国内においても「行ってみたい旅行タイプ」の1位になるなど、魅力的なコンテンツであり、強力なキラーコンテンツの1つである。これを踏まえ、温泉を単なる「観光」のみならず「滞在・体験を通じた療養・健康増進を図る場」へと転換し、温泉の魅力の再発見とブランド化への取組を進める。その一例として、国民の保健休養に資する温泉地としての国民保養温泉地の新たな指定や地域が一丸となる取組を応援し、温泉の価値を更に高める。

3. 温泉地に関する産・官・民のコーポレーション

(1) 民間企業と温泉地とのコーポレーションの強化

昨年12月より民間企業においてストレスチェックが義務化されるなど、メンタルヘルスを含む健康維持・改善の重要性がより一層認識されつつある。そのため、温泉地を活用して心身をリフレッシュするためのプログラム開発に係る多職種協働による取組を支援する。また、温泉を活用した新たな切り口の商品開発等にもむけた民間企業と温泉地関係者のコーポレーション強化を推進する。

(2) 温泉地関係者の全国的なネットワークづくり（温泉地サミット等）

全国温泉地サミットの開催等を通じ、温泉地が所在する地方自治体首長をはじめとした関係者間の連携を強化するとともに、温泉地活性化への取組に関する総合的な情報交換・発信の場とする。

(3) 関係省庁の連携による施策の推進

温泉地の活性化に寄与する関係省庁の施策について横断的に共有し、温泉地関係者に情報発信するなど連携した取り組みを進める。